

活動状況報告（9月）

スポーツコース 6期生 狩野 亮

9月よりオランダ・ティーンホーヘンに渡り、オランダ全土で行われている車椅子技術の伝達に関する啓蒙活動を学んでおります。本活動は Wheelchair Skills Team が展開しており、障がい者（児）を初め、セラピスト（日本でいう理学療法士や作業療法士）への指導、さらには健常者に対して車椅子技術の共有を行なっています。

彼らから初めに、『障がいは誰が決めるか』という問いを受けました。彼らの答えは、“障がい者自身が決める”そして、“障がいのない、その他多くの人間”が決めるというものでした。まさにその通りだと感じました。特に後者は、自分たちとは違う何かがある人間を、そうではない大多数の人がマイノリティー（少数派）と判断し、そこで初めて“障がい者”という扱いになる、そのことに改めて気付かされました。

彼らはこの哲学に基づき、障がい者自身を変えること、さらに“そうではない大多数”の方々に、私たちの生き方を共有し、少しでも両者の距離感を近づけていこうと活動しています。

実際に今月行動を共にして最も印象深かったのは、参加者が皆とても良い表情をしていたということでした。できなかったことができて笑顔が溢れる方や車椅子で生きることの難しさを感じ驚く方、どんどん難しい技術へ挑戦し楽しむ方、様々な表情を目にすることができました。

私にとっては当たり前の生き方が、このような価値を生み出すことに改めて気付かされ、彼らの活動の可能性を感じた1ヶ月となりました。引き続き、多くのことを学び帰国したいと思います。

